

まちかど

VOL. 40

MACHI-KADO

総集編

変わるまち、
変わらないまち



●静岡市ってこんなまち

●復活 あの日あの時

●Pick Up エリア紹介

etc...

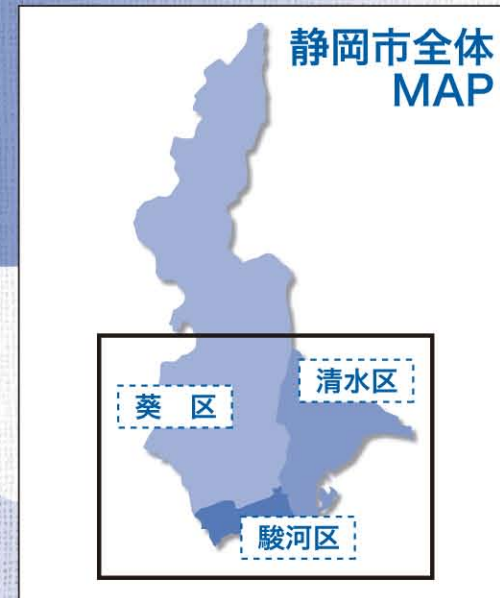


総集編

静岡文化情報「街かど」

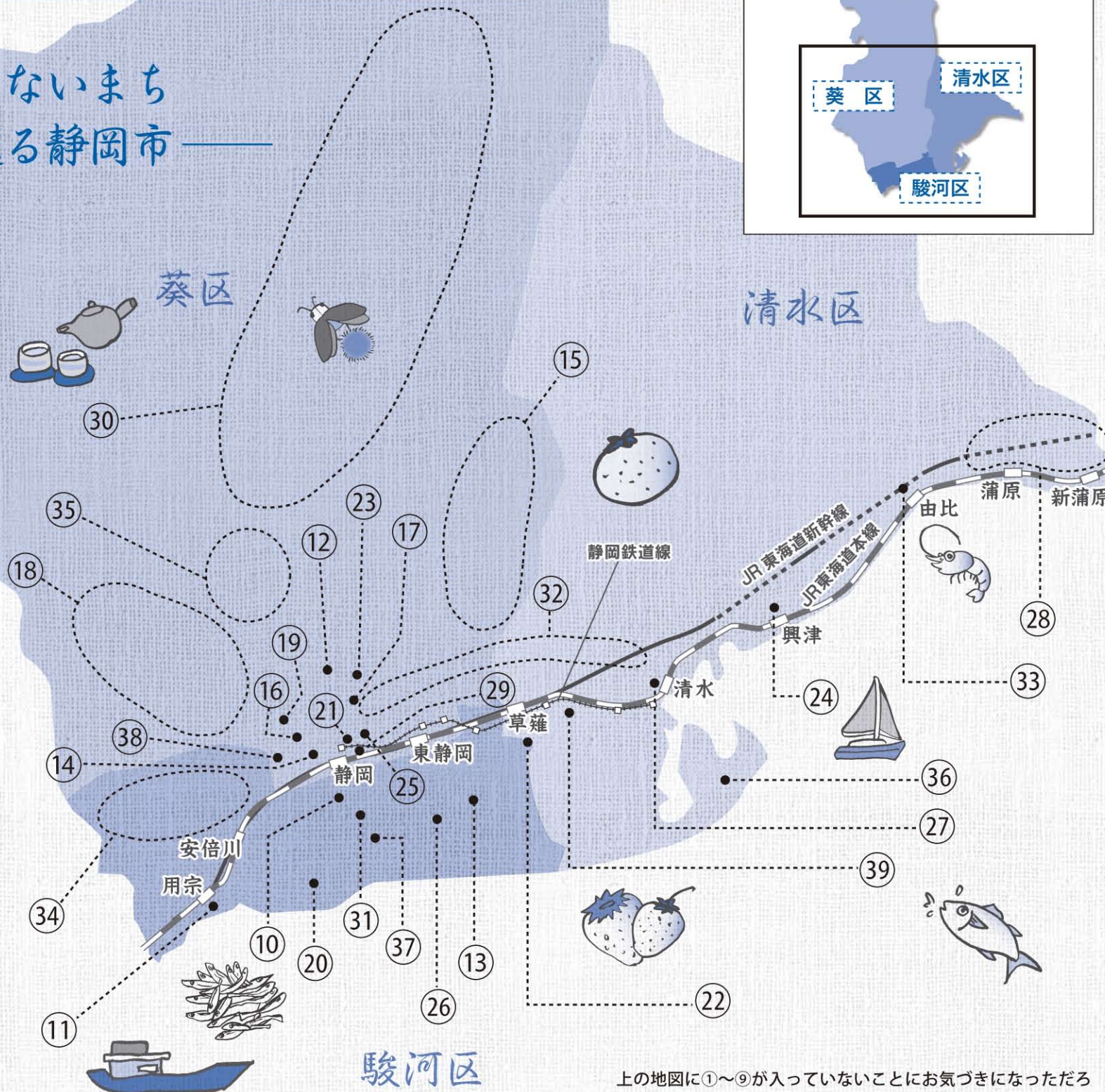
～vol.1-vol.39を振り返って～

平成6年に創刊した静岡文化情報「街かど」は、これまでに30の地域を特集し、歴史や文化を紹介してきた。創刊時は旧静岡市・清水市の合併以前だったため、取材範囲は現在の葵区・駿河区のみであった。平成15年以降は清水市、蒲原町、由比町との合併に合わせて取材範囲が広がっている様子が、下の地図と「街かど」の号数からおわかりいただけると思う。第40号を迎える今回は普段とは趣向を変えて、過去に「街かど」で紹介した地域や人々を振り返ってみたい。



変わるまち、変わらないまち 「街かど」で振り返る静岡市

vol. 10 ●駅南のカルチャースポット ●田宮模型 【発行】平成9年	vol. 11 ●用宗の今昔 【発行】平成10年 ↳ 関連記事 P5,10
vol. 12 ●鷹匠・長谷通り ●浅間通り・城北公園 ●賤機山讃歌 【発行】平成10年 ↳ 関連記事 P6	vol. 13 ●池田の今昔 【発行】平成11年 ↳ 関連記事 P10
vol. 14 ●静岡の繁華街 ●七間町・常盤町・両替町・人宿町 ●町名の由来豆知識 ●エンターテインメントの街 【発行】平成11年 ↳ 関連記事 P9	vol. 15 ●伝説の里・西奈 ●裾原山公園 【発行】平成12年 ↳ 関連記事 P6
vol. 16 ●駒形界隈 ●二丁町物語 【発行】平成12年 ↳ 関連記事 P6	vol. 17 ●西草深・東草深 ●馬人幸吉物語 ●教会のある街 【発行】平成13年
vol. 18 ●羽鳥周辺 ●木枯の森 【発行】平成13年	vol. 19 ●土手通り界隈 ●駿府生まれの戯作者 ●十返舎一九物語 【発行】平成14年
vol. 20 ●大里～大浜街道周辺 ●しずおかおでん 【発行】平成14年 ↳ 関連記事 P11	vol. 21 ●伝馬町通り ●静岡の演劇 【発行】平成15年



上の地図に①～⑨が入っていないことにお気づきになっただろうか。実は、創刊号から第9号までの「街かど」は、現在の「街かど」とはかなり趣の異なる冊子で、文化人の対談や、文化活動に取り組む人へのインタビューが中心だった。そのため上の地図には入っていないが、こちらも当時の状況を伺える貴重な資料。興味のある方は是非バックナンバーをご覧ください。

vol. 22 ●草薙周辺 ●草薙ネット 【発行】平成15年 ↳ 関連記事 P5,11,12	vol. 23 ●安東・北安東 ●静岡の地酒 【発行】平成16年 ↳ 関連記事 P8
vol. 24 ●興津 ●興津の景色に憧れて 【発行】平成16年 ↳ 関連記事 P5	vol. 25 ●きよみずさん通り ●映画のあるまち 【発行】平成17年 ↳ 関連記事 P9
vol. 26 ●曲金・小鹿・大谷 ●大学へ行くう!! 【発行】平成17年	vol. 27 ●清水巴川・港周辺 ●清水港とお茶 【発行】平成18年 ↳ 関連記事 P5,12
vol. 28 ●蒲原周辺 ●NPOと蒲原 【発行】平成18年 ↳ 関連記事 P5	vol. 29 ●鷹匠 ●鷹の市 フリーマーケット 【発行】平成19年 ↳ 関連記事 P6,8
vol. 30 ●安倍奥 ●安倍七騎 【発行】平成19年 ↳ 関連記事 P8	vol. 31 ●八幡界隈 ●八幡山散策マップ 【発行】平成20年 ↳ 関連記事 P10,11
vol. 32 ●北街道散策 ●静岡市民文化会館 開館30周年 【発行】平成20年	vol. 33 ●由比特集 ●由比漁港の今と昔 【発行】平成21年 ↳ 関連記事 P5,12
vol. 34 ●丸子・宇津ノ谷 ●文学の里 ●里のにぎわい 【発行】平成21年	vol. 35 ●美和探訪 ●美和の「文化の拠点」 ●静岡茶発祥の地 【発行】平成22年
vol. 36 ●三保半島 ●学びのスポット ●三保の松原 【発行】平成22年	vol. 37 ●登呂周辺 ●登呂公園 ●静岡新聞社・静岡放送 【発行】平成23年
vol. 38 ●田町散策 ●田町と安倍川 ●職人のまち 【発行】平成23年	vol. 39 ●御門台・狐ヶ崎 ●遊園地のあったまち ●住む人みんながつくるまち 【発行】平成24年

※「街かど」バックナンバーは、当財団ホームページからダウンロードできます。
冊子の残っている号はごくわずかです。
ご希望の方は当財団までお問い合わせください。

(公財) 静岡市文化振興財団
お問合せ TEL / 054-255-4746
URL / <http://www.scpf.shizuoka-city.or.jp/>

静岡市、てこんなまち

静岡市は、静岡県のほぼ真中に位置する静岡県の県庁所在地であり、全国で14番目に指定された政令指定都市。南は駿河湾から北は赤石山脈（南アルプス）まで、静岡県を南北に貫き様々な表情を持つまちだ。

明治2年（1869年）、当時「駿府」または「府中」といわれていた地名が「静岡」へと改称されたことから「静岡」としての歴史が始まった。明治22年（1889年）には当時の府中宿と周辺の町村が統合され、「静岡市」が誕生。その後編入を重ね、平成15年には旧静岡市と隣接する旧清水市が合併し、

人口70万人を超える新「静岡市」が誕生した。その後平成18年には蒲原町と合併、平成20年には由比町と合併し、平成24年5月現在で面積1411.85km²（全国第5位）、人口722,636人（全国第19位）の大都市となっている。

市内は葵区・駿河区・清水区の3区に分かれており、それぞれが異なった特徴を持っている。中でも葵区は南アルプスを含むため面積が1073.42km²と広大で、全国の区の中で第1位を誇る。

静岡市の合併の歴史

※人口：静岡市情報管理課 月別人口データより
※面積：静岡市勢要覧より
※人口は各月1日現在の数字

年月	静岡市の動き	面積	人口（住民基本台帳＋外国人登録）
平成15年4月	旧静岡市と旧清水市が合併 新「静岡市」誕生	1373.89km ² (旧静岡市：1146.23km ² 、旧清水市：227.66km ²)	710,738人 (旧静岡市：473,888人、旧清水市：236,850人)
平成18年4月	静岡市と蒲原町が合併	1388.74km ²	721,620人
平成20年11月	静岡市と由比町が合併	1411.81km ²	729,038人
平成24年5月		1411.85km ² (※面積の増加は清水港の埋め立て等によるもの)	722,636人

静岡市の文化をめぐる18年史

「街かど」が創刊した当時から現在までを振り返ってみると、18年という月日の間に様々な文化施設が誕生し、静岡市の町並みが大きく変化してきたことが分かる。また、「街かど」創刊前の平成4年に第1回大会が開催された大道芸ワールドカップは、平成23年で20周年を迎えた。規模は毎年大きく成長し、静岡市を代表するイベントとなっている。

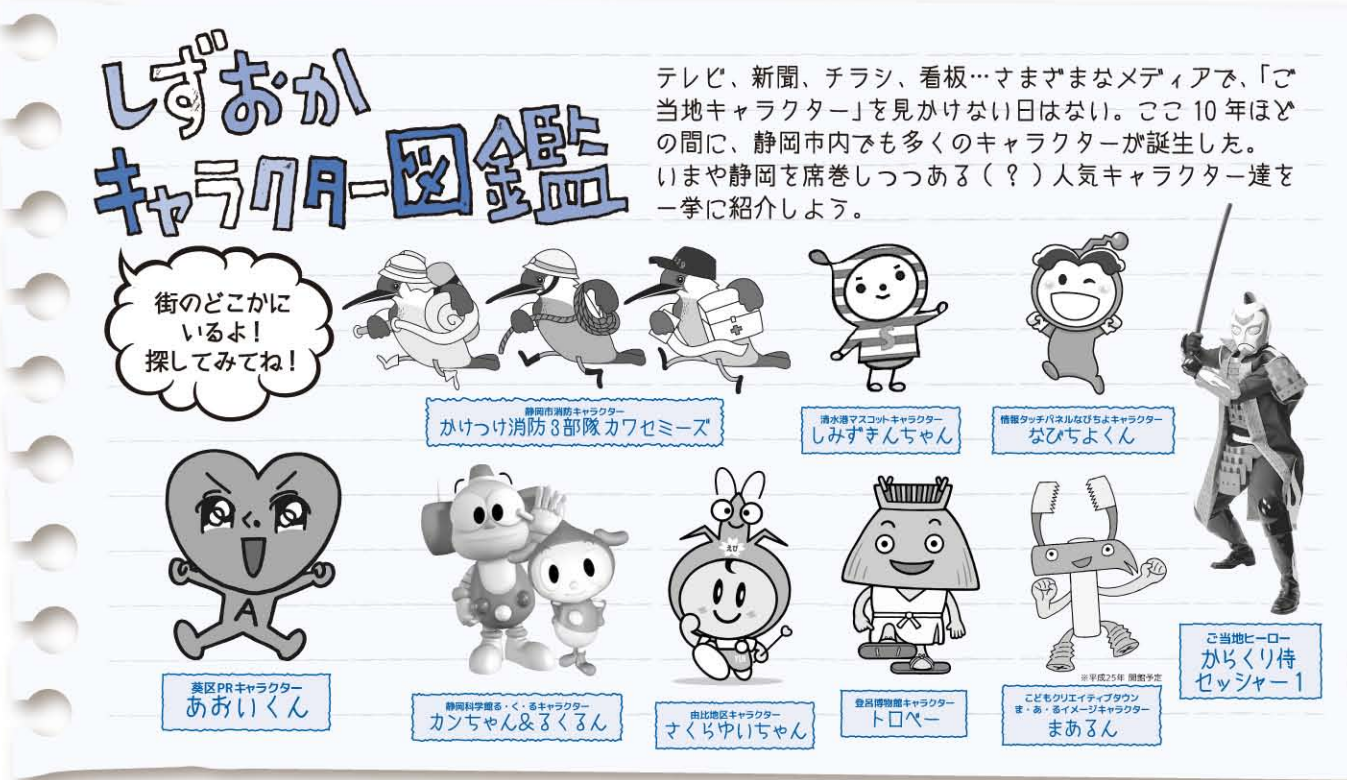
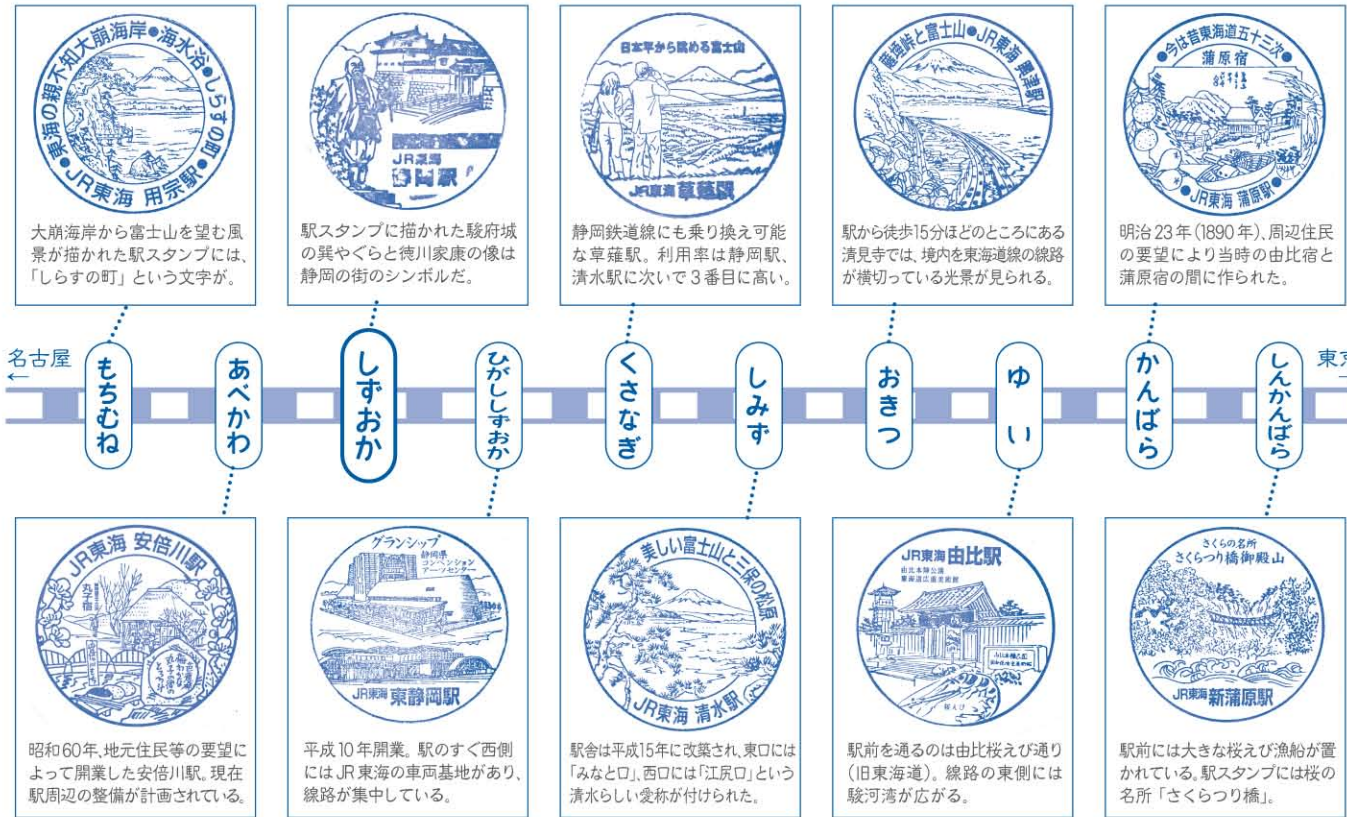
静岡の出来事	文化的な出来事
●プロサッカーリーグ「リーグ発足 清水エスパルス誕生	平成4年 ●大道芸ワールドカップ in 静岡 第1回開催 平成6年 ●静岡市文化振興財団 発足 ●東海道広重美術館 オープン
★「街かど」創刊★	
●ツインメッセ静岡 オープン	平成7年 ●中助助文学記念館 オープン ●静岡音楽館 AOI オープン
●JR 東静岡駅 開業	平成8年 ●静岡アートギャラリー オープン
●静岡「葵」博 開催 ●清水テルサ オープン ●J-STEP オープン	平成9年 ●静岡アートギャラリー オープン 平成10年 ●駿府匠宿 オープン ●静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」オープン
平成15年 ★旧静岡市と旧清水市が合併。新「静岡市」誕生★	
	平成16年 ●静岡科学館る・く・る オープン
平成18年 ★静岡市と蒲原町が合併★	
●日本平動物園にホッキョクグマ来園「ロッシー」と命名	平成20年
平成20年 ★静岡市と由比町が合併★	
●駿河湾を震源とする震度5強の地震が発生 駿府城跡の石垣が崩落	平成21年 ●静岡国文祭 開催(県)
●日本平動物園猛獣館 299 オープン	平成22年 ●静岡市美術館 オープン ●久能山東照宮が国宝に指定
	平成22年 ●静岡ホビーフェア 開催 平成23年 ●静岡ホビースクエア オープン ●大道芸ワールドカップ in 静岡 20周年
	平成24年 ●静岡市清水文化会館 マリナート オープン



面積全国第5位を誇る静岡市。その広さゆえに、JR 東海道線の駅が10駅もあり、東海道線で静岡市を横断するには実に30分以上もかかる。ここでは、普段なかなか気にかけることの少ない10駅の色を、「駅スタンプ」と一緒に見てみたい。

駅スタンプとは駅に置かれているスタンプのことで、構内になくても駅員さんに尋ねると出してくれることもある。駅スタンプはその駅周辺の名所や名産をイラスト等で表していることが多く、静岡市内の10駅の絵柄を見比べてみても、多様な景観を持つ静岡市の様子がよく分かる。

※注：全国のすべての駅に駅スタンプが設置されているわけではありません。ご注意ください。



Pick Up!

葵区

静岡市の面積の約76%を占める葵区。
「街かど」でも、その中の数多くの地域を取り上げてきた。

Vol. 12

鷹匠・長谷通り・浅間通り・城北公園

「おせんげんさん」の名で親しまれている静岡浅間神社は、駿府城公園の北西に位置する静岡市を代表する神社。共に神社への参道として栄えた赤鳥居側の浅間通りと、石鳥居側の長谷通りは、今も懐かしい佇まいが残る通りだ。特に浅間通りは、浅間神社正門寄りの1番街から駿府城寄りの5番街まで南北約600メートルもの商店街が続いており、老舗店から新しいお店までさまざまなお店が建ち並んでいる。ふらりと歩いていると、のんびりした商店街の雰囲気にほっと心が和む。

静岡浅間神社の境内から賤機山山頂へと向かう道は、春には桜のトンネルができる花見の名所。かつてこの山には山頂まで行くリフトがあり、山頂にはゴンドラ塔があったという。昭和50年頃には廃止されてしまったが、頂上のゴンドラから市街地を見下ろす景色はさぞ壮観だったことだろう。ゴンドラこそないが、現在でも山頂の賤機山公園からその眺望を楽しむことができる。



▲街かど第12号でも登場した、浅間通りの有名店「河内屋」のどら焼き。

伝説の里 西奈

Vol. 15

竜爪山と長尾川に育まれた豊かな自然を持ち、常葉学園大学を中心として文教地区としても発達している西奈地区。

清水区との境に位置する梶原山（標高278メートル）は、鎌倉時代の武将・梶原景時が最期を迎えた場所として知られている。静岡市全域を一望できる大パノラマが広がる山頂から眺める町は、まるでミニチュアのような。耳を澄ますと、遠い麓の学校の子どもの声や駿河湾の船の汽笛の音が聞こえてくる。

自然豊かなこの地域には多くの伝説が伝わっており、第15号でもその多くを取り上げている。中でも有名なのが、「沼の婆さん」の伝説。沼のカッパに引きずり込まれて死んだ孫娘の仇を討とうと、大蛇となってカッパを退治し沼の主になった老婆、秋野。秋野の霊は、「沼の婆さん」として諏訪神社に祀られている。



▶竜爪山に源流のある長尾川



▲梶原山公園からの絶景。360度のパノラマだ。

駒形界隈

Vol. 16

七間町通りを安倍川方向に行くと、駿河町通りをはさんで駒形通りが始まる。駒形通一丁目から駒形通六丁目に至るまで、約1kmに及ぶ駒形通り沿いには、懐かしい雰囲気の漂う商店が建ち並ぶ。八百屋、魚屋、精肉店など、ここでは今も大型スーパーではなく個人商店が賑わいを見せており、夕方にかけて近所から自転車で行き交す人々で混み合う。また、駒形通三丁目の通り沿いにある「桜湯」は、今ではすっかり少なくなってしまう昔ながらの銭湯。駒形通りの風景には銭湯ののれんがよく似合う。

駒形通五丁目付近、現在静岡県地震防災センターがあるあたりには、かつて幕府公認の遊郭があった。約1万坪もの敷地があった広大な遊郭の一部は後に江戸に移され、かの有名な「吉原遊廓」となった。残った町は「二丁目」と呼ばれ歓楽街として明治以降も続いた。その二丁目も第二次世界大戦の静岡大空襲により焼失してしまい、稲荷神社にひっそりと建つ「双街の碑」にその名残を残すのみだ。



▲買い物客で賑わう駒形通り商店街

▲今ではすっかり珍しくなった昔ながらの銭湯「桜湯」

復活

あの日あの時

▼現在の静岡駅前
左手は、静岡市内で最も高いビル「葵タワー」



▲昭和28年静岡駅前広場（撮影：海野幸正）

静岡駅前

明治22年（1889年）、東海道線の開通に伴って開業した静岡駅。写真は昭和28年頃のもので、右手に松坂屋、左手にあるのは紺屋町の富士山型のネオンだ。車はまばらで建物も低く、遠くの山々が見渡せる。

現在の静岡駅前にはビルが建ち並び、正面の国道1号線には常時車が行き交う。遠くの山々はすっかり見えなくなってしまったが、駅前の松坂屋デパートは今も健在だ。



▲昭和29年 堀端に行く電車（撮影：海野幸正）

静岡市役所とお堀

駿府城公園のお堀の周りには、かつて路面電車が走っていた。奥に見えるのは静岡市役所（現本館）。屋上のスペイン風のドーム（通称あおい塔）は、今も昔も変わらない風格で静岡市を見守っている。



▲現在のあおい塔

この建物は、静岡県庁本館や静岡銀行本店を手掛けた中村興資平の設計で昭和9年に建てられており、平成8年には文化庁の登録有形文化財に登録されている。（県内第1号）

SBS 通り

かつてこのあたりは一面原っぱで、遠くがよく見渡せたという。写真だけを見ると、とても現在の車が行き交うSBS通りを想像することはできない。今ではセントラルスクエア静岡を始め、静岡新聞社や駿河区役所など、大きな建物が建ち並んでいる。



▲現在のSBS通り



▲昭和31年 バスを待つあけぼの保育園の子どもたち

清水魚市場

早朝の清水魚市場には、競り人と仲買人の大きな声が飛び交い、手際よく魚が競り落とされていく。



▲現在の清水魚市場

写真は昭和29年の清水魚市場の様子。清水港にはたくさんの生の近海マグロが水揚げされたという。今日では遠洋からの冷凍マグロの水揚げが中心となり、その水揚げ量は国内全体の約半分。市場の活気ある雰囲気は今も昔も変わらない。



▲昭和29年 清水魚市場（撮影：海野幸正）

街かどでは、「あの日あの時」と題して、たびたび特集地域の懐かしい写真と共に当時の様子を振り返ってきた。第19号から第30号に不定期に掲載されていたこのコーナーが、総集編のために特別に復活。
昭和30年頃の写真と現在の写真を見比べて、静岡市の街の様子がどのように変化していったのか想いを馳せてみてほしい。

Pick Up!

葵区



Vol. 23

安東・北安東

「安東」の名は、賤機山に沿って流れていた安倍川の東側の地域であることからつけられたと言われている。かつては広大な湿地帯で一面に田畑が広がっていたという安東だが、今では閑静な住宅街として知られている。また、徳川家康が駿府城在城の頃、このあたりには「駿府薬園」という江戸幕府の薬草園があり、約4300坪の敷地内に薬草木100種余りが栽培されていたという。現静岡信用金庫安東支店前には、駿府薬園跡の石碑が残されている。

安東地区の西側にあるのは、直径10メートルもある大きな花時計がシンボルの、自然豊かな城北公園。ここにはかつて静岡大学の前身のひとつである旧制静岡高等学校があった。大学発足後、校地は静岡大学文学部部のキャンパスとして継承されたが、昭和43年には大学は大谷に移転し、跡地は整備されて城北公園となった。

公園内には静岡市立中央図書館も併設されており、静岡市民の学びの場としても親しまれている。



◀城北公園内には北海道を走っていたというSLも展示されている。



▲緑豊かな城北公園

鷹匠

Vol. 29



かつて徳川家康に仕えた鷹匠が居住したことからこの名が付いたとも言われる鷹匠。「静岡の代官山」と言われることもあるこの街には、お洒落で小粋なお店が建ち並ぶ。第29号で鷹匠を取り上げたのは平成19年のことで、鷹匠の老舗のお店やお洒落なお店、鷹の市フリーマーケットの様子などを紹介した。

その鷹匠に平成23年に登場したのが、「新静岡セノバ」である。前身の「新静岡センター」がオープンしたのは昭和41年。新静岡駅の駅ビルとして、実に40年以上も愛されたショッピングセンターは借しまれつつも取り壊され、映画館や大型電気店を兼ね備えた新たなビルに生まれ変わった。県内初出店となるテナントも多く、静岡市民だけでなく市外の人々にとっても新たなショッピングスポットとして賑わいを見せている。

それ以外にも年々魅力的なお店がオープンし進化し続けている鷹匠は、目が離せない街のひとつだ。



▲新静岡駅の駅ビル「新静岡セノバ」

安倍奥

Vol. 30

東海道の宿場町や城下町としてのイメージが色濃い静岡市だが、実は市街地の面積は全体の20%程度で、そこに95%の人が生活している。市の面積の大半は豊かな自然の残る山間地域で、そこには歴史ある文化や美しい景観が今も残っている。

平成22年頃より、静岡市ではその山間地域に「奥静岡」＝「オクシズ」という愛称を付け、その魅力を知ってもらおうとPRしている。「オクシズ」は大まかに4つのエリアに分けられており、「安倍奥エリア」はそのひとつだ。

市街から安倍街道を北上すること約50km、安倍奥の最深部、安倍川の源流近くに、1700年もの歴史を持つと言われる温泉郷・梅ヶ島温泉がある。静岡駅から車で約1時間45分、なんとここもまだ葵区だというから驚きだ。梅ヶ島周辺にはそれぞれ趣の違う数多くの滝があり、中でも「安倍の大滝」は「日本の滝百選」にも選定されている名瀑だ。

また、安倍川流域に遠い昔「安倍七騎」と呼ばれる七人の侍がいたという伝説があり、第30号ではその伝説についても考察しているので、興味がある方はぜひ読んでみてほしい。



◀「奥静岡ガイドマップ オクシズ」では、オクシズのおすすめスポットや自然景観が紹介されている。

▲市内最大の滝「安倍の大滝」

映画のあるまち 2012

映画は、今や私達の生活に欠かせない代表的な娯楽。「街かど」の中でも、第2号、第14号、第21号、第25号と、過去何度も記事の中で静岡の映画館を取り上げていく。しかし、映画を取り巻く環境は日々変化しており、私達の町もその例外ではない。ここでは、過去の「街かど」の記事を振り返りながら、静岡市の映画館文化の変容について考察していきたい。

■ 映画の誕生と発達

映画は明治28年(1895年)頃発明され、「活動写真」として日本で紹介された。その後、当時大衆娯楽として賑わいを見せていた「芝居小屋」や「寄席」は次々と活動写真館に変わり、映画館文化が始まった。昭和20年代後半から30年代前半にかけて全盛期が到来し、映画館の年間入場者数は当時の日本人口の約10倍である11億人に達した。

静岡では、明治30年(1900年)に若竹座(現在の常盤公園周辺にあった芝居小屋)の前身である玉川座で最初の活動写真が上映された。全盛期には、市内各地に30近い映画館が存在したという。

■ 静岡の映画文化の中心～七間町シネマストリート

かつては市内各地に映画館があったとはいえ、映画館のある街としてなじみ深いのはやはり七間町だろう。もともと芝居小屋で賑わいを見せていた七間町周辺は、映画の登場により映画館街へと変貌していった。大正8年(1919年)には現「静岡株式会社」の前身である「静岡活動写真株式会社」が創立され、七間町に洋画専門の「キネマ館」をオープン。映画館のある街・七間町の基礎が出来上がった。

■ 映画館の衰退～テレビの普及

全盛期は最大の大衆娯楽として親しまれていた映画だが、昭和33年頃をピークに映画館入場者数は大幅に減少し始める。昭和28年に登場したテレビの普及による影響である。かつては映画館で見逃せばその映画は本当にもう二度と観ることができなかったが、テレビやビデオで観ることができるようになると、人々の映画館離れは顕著になった。



▲現在の七間町。映画館跡地には、新たにビルが建設される予定だ。

■ シネコンの登場～映画のゆくえ

映画館の入場者数が減る中、平成5年に新たな形の映画館であるシネマ・コンプレックス(シネコン)が日本で初めてオープンした。シネコンとは10前後のスクリーンを持つ複合映画館のことで、作品の選択肢も多く快適な設備が整っていることから、世界的に主流になりつつある。

静岡市内では、平成11年にエスパルスドリームプラザ内に「MOVIX清水」がオープンし、多くの市民の人気を集めている。また平成23年には、新静岡セノバ内に10ものスクリーンを擁する「シネシティザート」がオープンした。

「シネシティザート」のオープンに伴って七間町の静活系の映画館は閉館し、映画館群は静岡東宝会館を残すのみとなってしまった。かつてのシネマストリート・七間町は再開発され、今後ビジネスビルが建設される予定である。

今や映画はテレビやDVD、インターネットなど多様なメディアで観ることができ、私達の映画との付き合い方は大きく変化している。また映画自体も、無声からトーキーへ、白黒からカラーへ、そして3Dへと、絶えず変化し続けている。

古き良き映画館が街から消えゆくことは寂しいことだが、環境が変わっても、映画は変わらず私達の生活に潤いをもたらす大切な存在であり続けるであろう。



▲平成13年 静岡オリオン座・静岡有楽座(上)と静岡ミラノ座(下)。七間町のシンボルとして長年愛されたが、平成23年に借しまれつつも閉館。

Pick Up!

駿河区



Vol. 11

用宗

用宗は、用宗漁港と用宗海岸を中心とした自然豊かなのどかな地域で、昔は「静岡の奥座敷」とも言われた。一説ではこの地は船の停泊地があったことから「持舟（もちふね）」と名付けられ、それが後に「用宗（もちむね）」へと転化していったと言われている。今では用宗駅の北側にある今川氏時代の城跡「持舟城址」にその名を見ることができる。

用宗漁港ではしらすを中心とした魚介類が水揚げされ、漁港の脇にある漁協直営の「どんぶりハウス」では新鮮なしらすを味わうことができると評判だ。また、第11号の用宗特集の際には改築したてとして紹介した用宗駅だが、今ではその駅舎も10数年を経て年季が入り、かわいらしい燕の巣も見られた。小沢昭一「東海道ちんたら旅」の中に登場するという用宗駅の構内の手製の座布団（詳しくは第11号参照）は、今では残念ながらその姿を見ることはできなかった。駅前のベンチには、その名残であろうか、かわいらしいジョイントマットが敷かれている。



▲新鮮なしらす丼



▲用宗駅前のベンチ



▲大崩海岸を望む用宗海岸

池田

Vol. 13

東静岡駅とグランシップの開業から約15年——東静岡駅周辺はいま、高層マンションや商業施設の建設ラッシュでその景観を大きく変えつつある。しかし、池田周辺で大きな動きを見せているのは東静岡だけではない。

池田は名勝日本平の玄関口でもあるが、その日本平山頂がいま、「日本平公園」として生まれ変わろうとしているのだ。これまであった施設や自然環境を整備し直し、静岡の美しい風景を楽しめる展望公園にする計画だ。公園内には宿泊迎賓施設やイベント広場、体験施設、展望施設などが配置される予定で、静岡の新しい観光スポットとなるだろう。

文化・交流ゾーンに建設中の日本平ホテルは平成24年9月19日に新規開業を予定している。

▼公園内に予定している施設



風景の森

共生の森

歴史のゲートゾーン

観望の丘ゾーン

ロープウェイ・展望施設

文化・交流ゾーン

宿泊迎賓施設

センターゾーン

駐車場

富士山



▲日本平公園の全体イメージ

八幡

Vol. 31

八幡地区の中心に位置する八幡山だが、昭和中期には東名高速道路用土として山全体を無くしてしまう計画があったという。結果的にその計画は中止になり、八幡山公園として整備された。八幡山は標高約63メートルという小さな山でありながら頂上からは静岡平野と駿河湾が一望でき、天気がいければ富士山も見ることができる。

また、八幡山の麓にある八幡神社の拝殿の東側には立派な土俵があり、毎年8月の八幡神社例大祭では「古式土俵子供土付」という特殊神事で使われている。「古式土俵子供土付」とは1～2歳の男の子にまわしを付け、土俵に上げて横綱（実際には15～16歳の少年）を投げ飛ばさせるというとてもおもしろい神事。今川氏親（義元の父）と小鹿範満の家督問題を、伊勢新九郎（北条早雲）が納めたという物語を模したものとされている。

八幡地区の南側、SBS通り沿いには、静岡市の政令指定都市移行に伴い駿河区役所が新築された。また平成17年にはその西側に大型ショッピングセンター「セントラルスクエア静岡」がオープンし、八幡は駿河区民の生活にとって欠かせない地域となっている。



▲駿河区役所



第6回 駿河区写真コンテスト 入賞作品
「赤ちゃん山の勝ち」 栗田幸子（撮影地：八幡神社）

がんばる人たち あれから……

街かどでは、これまで様々な文化活動に取り組む人々を紹介してきた。総集編となる今回は、過去に紹介した活動の「あれから」にスポットを当ててみた。

静岡おでんの会



第20号で紹介した時には、まだ設立直後だった「静岡おでんの会」。あれから10年、変化したのはまず「静岡」の読み方。以前は「しずおか」だったのだが、今は静岡弁で「しぞーか」と読むのだそう。

10年の間に静岡おでんの知名度は急上昇し、今ではTV・新聞からの取材やイベントへの出店依頼で引っぱりだこだという。今年6月にはお笑いコンビが期待される。順風満帆なようだが、現会ますます知名度アップが期待される。順風満帆なようだが、現会ますます知名度アップが期待される。順風満帆なようだが、現会ますます知名度アップが期待される。

芸術文化奨励賞 羽根田敦子さん



静岡市の芸術文化振興に貢献した人に贈られる静岡市芸術文化奨励賞。過去の街かどでも幾度か受賞者を紹介してきたが、今回は平成23年度に受賞した声楽家の羽根田敦子さんにお話を伺った。

数多くのオペラ公演で主役を演じるなどソプラノ歌手として活躍する傍ら、地元で密着した演奏活動や、静岡市でのオペラの普及活動に尽力したことが今回の受賞につながった。「後に続く人に、『静岡でがんばろう!』と思って欲しい」という思いが、その活動の原動力になっているそうだ。

この取材の10日後にはイタリア公演に出発するという羽根田さん。多忙を極めるはずだが、「イタリアの風を静岡に持って来られたら」と語る表情に疲れは見えない。精力的に活動続ける羽根田さんの願いは、きっと次の世代の音楽家たちにも受け継がれていくことだろう。

静岡フラウエンコール

静岡フラウエンコールは、昭和50年に発足した女声合唱団だ。平成6年発行の「街かど」創刊号では、創立者であり当時指揮者でもあった藤井京子さんに、第17回全日本おかあさんコーラス全国大会で最優秀賞に輝いた時のお話を伺った。

現在も27歳から63歳までの15名で活動が続いているという静岡フラウエンコール。みんな歌うことが好きな元気溢れる女性たちで、中には20～30年続けているメンバーもいるという。現在代表を務める小田さんは、「歌い続けるためには健康でいなければならないし、家族の理解も必要。日々感謝しながら歌っています」と話してくれ。きっとその気持ちが、素敵な歌声に繋がってゆくのだろう。



アトリエサンゴ



粘土で作られた表情豊かなキャラクターたちは、今にも動き出しそう。アトリエサンゴの作品は、思わず顔がほころんでしまうような遊び心で溢れている。第31号から今回まで10回にわたって「街かど」の表紙デザインをしてくれたのは、清水区にアトリエを構えるアトリエサンゴの川内ゆうじさん。粘土やイラストによる創作だけでなくワークショップなども行っており、今まで第22号と第31号でもその活動を紹介している。

過去の「街かど」の表紙デザインを振り返って、川内さんは「街かどでは常に新しいことに挑戦したので、どの作品も思い出深い」といろいろな裏話をしてくれた。特に三保半島（第36号）の時は人形と魚を針金で固定して浮かすのに苦戦したそう。今回の表紙では、第31号から第39号までに登場したキャラクターが集合し、イラストと粘土を組み合わせたデザインに挑戦している。

「作品を作ることと、見る人とのコミュニケーションが生まれる。その輪をどんどん広げたい」と話す川内さん。これからどんな作品で私達を楽しませてくれるのか、ますます期待が高まる。



▲アトリエサンゴの川内ゆうじさんと浜口ゆうりさん。アトリエに併設されたショップでは、全国から集めた個性的な作品も販売している。



Pick Up!

清水区

かつての清水市、由比町、蒲原町によって形成されている清水区は、港のイメージの色濃いまちだ。



Vol. 22

草薙

草薙という閑静な住宅街でお洒落な店が多く集まる地区だが、現在のような住宅地になったのはごく近年のこと。かつてこのあたりは民家がとても少なく、一面の茶畑と松林の風景だったという。また、戦時中には現在県立大学のあるあたりに壕が作られ、大砲や機関銃なども設置されていたとか。今では県立美術館や県立大学などの文化スポットや総合運動場などの人の集まるスポットが多く、南幹線を中心に非常に発達している。

草薙という地名は草薙神社に由来するもの。日本神話において、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が東国を平定するために駿河に入った際、天叢雲剣（あめのむらくものつぎ）で草を薙いで野火の難を逃れた地がこの地であると伝えられており、その後日本武尊の勲功の地を巡幸した景行天皇によって草薙神社が建立された。また、草薙神社で毎年9月に上げられている龍勢花火は、現在では全国で5カ所だけで伝承されていないロケット式の珍しい花火で、静岡県指定無形民俗文化財にも指定されている。



▲緑豊かなプロムナード

▶草薙神社の鳥居の横には、日本武尊の像が。

清水巴川・港周辺

Vol. 27

清水の港周辺から清水駅にかけてのエリアは、ここ10年ほどで大きく様子を变えた地域のひとつだ。

清水駅周辺地区は駅東と駅西含めて整備事業が進められており、ここ数年空前の建設ラッシュを迎えている。平成12年に駅東に現東部勤労者福祉センター「清水テルサ」が完成したことを皮切りに、平成15年には清水駅の全面改築が完了し、近代的で広々とした橋上駅舎と東口歩行者デッキが完成した。続いて今年8月には、その歩行者デッキに直結した好立地に「静岡市清水文化会館 マリナート」がオープンする。また西口は駅前の広場が拡張され、新たにバスターミナルが配置されたほか、周辺には再開発ビルや高層マンションが建設されている。来年1月には再開発ビル内に「静岡市子どもクリエイティブタウン ま・あ・る」がオープンを控えている。

また、平成11年に清水マリンパークの隣にオープンした大型複合施設「エスパルスドリームプラザ」は、県内外から多くの人で賑わうスポットとなっており、今後駅周辺の再開発と連動しながら清水のまちの賑わいを創出することが期待される。



▼平成24年8月開館「静岡市清水文化会館 マリナート」



▲かつて清水港で活躍していた荷揚げクレーン「清水港テルファー」は、景観重要建造物として保存されている。

由比特集

Vol. 33

平成21年、由比町と静岡市が合併した直後に「街かど」では由比を特集している。由比町が合併したことでこれまで2年弱続いた飛び地が解消され、静岡市はより広大な面積を持つ市となった。

由比といえば桜えび。江戸時代から駿河湾の漁民の間では「ちいさな桜色をした海老」の存在は知られていたが、桜えび漁が行われるようになったのは明治27年（1894年）頃からだという。現在では、由比・蒲原地区だけで国内の9割近い漁獲量を揚げている。旧東海道は「由比桜えび通り」と命名され、通りの入り口では巨大な桜えびのモニュメントがお出迎え。また、由比港漁協の漁師の奥さん達が切り盛りする「浜のかきあげや」は、今では漁のシーズンには県外からも大勢の人が詰めかけて行列ができるほどの人気だ。

また、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」では、由比宿の風景として薩埵峠が描かれており、五十三次の中で江戸時代の風景とほぼ同じ風景が眺められるのは薩埵峠だけだと言われている。



▲「東海道五十三次」にも描かれた、薩埵峠から望む景色。

アンケート



静岡の皆さんに訊きました!

「街かど」創刊は平成6年。当時、その時から大きく変貌を遂げた今の静岡市を想像することは難しかっただろう。では今から18年後には、一体静岡市はどんなまちになっているだろう?どんなまちになってほしいだろう?みなさんも想像してみてください。



Q. この町が18年後、どうなってほしいと思いますか?



今回は各区の学校を代表して、3校の生徒たちにアンケートに答えてもらった。全校生徒5名で故郷への思いを巡らせてくれたのは井川中学校のみんな。入江小学校では手作りの5色の戦闘服に身を包み校内を盛り上げる「イリエンジャー」が、大里東小学校では児童会のみんなが、それぞれ発想豊かに答えてくれた。

18年後も人々が安心して笑顔で暮らしていけるように、静岡市がアンケートで答えていただいたようなより素敵な町になることを願いたい。



information

静岡科学館る・く・る は、

7/24(水)～9/2(日)は毎日開館!

家族で
発見!みんなで
体験!

第1位

第2位

第3位

第4位

第5位

る・く・る
人気展示物
ベスト51位 まくら迷路
この迷路の中はまくら。そんなときはどうやって進んでいけばいいのかな?もちろん「かい中電どうを使っちゃだめだよ」2位 おどろきスライダー
どうして、トンネルを走っているとふしぎなことが起きるのかな?実際に乗って体験してみよう!3位 あーくしゅ
ここにあるいろいろな手は、「静岡科学館る・く・る」からのこあいさつ!いったいどんな手なのか「あーくしゅ」してみよう!4位 さかさメガネ
どうして「さかさメガネ」をかけるとまわく動けなくなるのかな?不思議なさかさ世界が君をまわっているよ。5位 くるくるプロペラ
レバーの動かし方によってプロペラが飛ぶ高さが変わるよ。お友だちと「きょうそう」しよう!

JR静岡駅南口から徒歩1分 中学生以下無料

※15歳以上の方(中学生を除く)の入館料は500円です。



静岡科学館 る・く・る

〒422-8067 静岡市駿河区南町14番25号 エスパティオ8～10階

TEL 054-284-6960 FAX 054-284-6988

ホームページ <http://www.rukuru.jp>

指定管理者 公益財団法人 静岡市文化振興財団

るくる

検索

る・く・るには以下の
施設・サービスがあります。

図書コーナー おむつ替え台 休憩所



授乳室 ベビーカー貸出

編集後記 From Editor

●静岡市は、本当に多様な面を持った魅力的なまちです。今回の総集編を編集していく中でそれを改めて感じました。

●取材に当たって過去の街かどを振り返ると、実に多くの方たちにお話を聞いてきたことに驚かされます。まだまだ面白い活動をしている方が身近にたくさんいるかもしれない……と思うと、少しわくわくしますね。

●よく見てみると、キャラクターはメディアや街のあちこちにいるということに気がつきました。みなさんも探してみてください。

取材協力 (順不同・敬称略)

●大道芸ワールドカップ実行委員会 ●公益財団法人静岡市まちづくり公社 ●静岡市立日本平動物園 ●静岡市立登呂博物館 ●山比町商工会 ●株式会社テレビ静岡 ●静岡県清水港管理局 ●静岡市中山間地振興課 ●静岡市駿河区まちづくり振興課 ●静岡市葵区総務・防災課 ●静岡市消防局 ●静岡市産業政策課 ●静岡市公園整備課

参考文献

●「静岡文化情報 街かど」創刊号～第39号 編集・発行：静岡市文化振興財団
●「写真集 静岡今昔 100 景」 編集：羽衣出版編集部 発行：羽衣出版
●「海野幸正写真集 刻は流れて」 著者：海野幸正 発行：羽衣出版
●「草薙神社龍勢花火」 発行：草薙神社龍勢保存会

静岡文化情報「街かど」第40号

●平成24年7月発行(年1回発行)

●編集・発行
公益財団法人 静岡市文化振興財団
〒420-0031
静岡市葵区呉服町二丁目1-1 札の辻ビル6階
TEL: 054-255-4746 FAX: 054-653-3501●デザイン・印刷
(株) 静鉄アド・パートナーズ
〒420-0837
静岡市葵区日出町8-3 (静鉄日出町ビル2F)
TEL: 054-252-3132・3133 FAX: 054-254-1831●表紙キャラクター制作
川内ゆうじ/アトリエ サンゴ
〒424-0886 静岡市清水区草薙26
TEL・FAX: 054-345-6655

シリーズ・芹沢銈介の作品と収集!

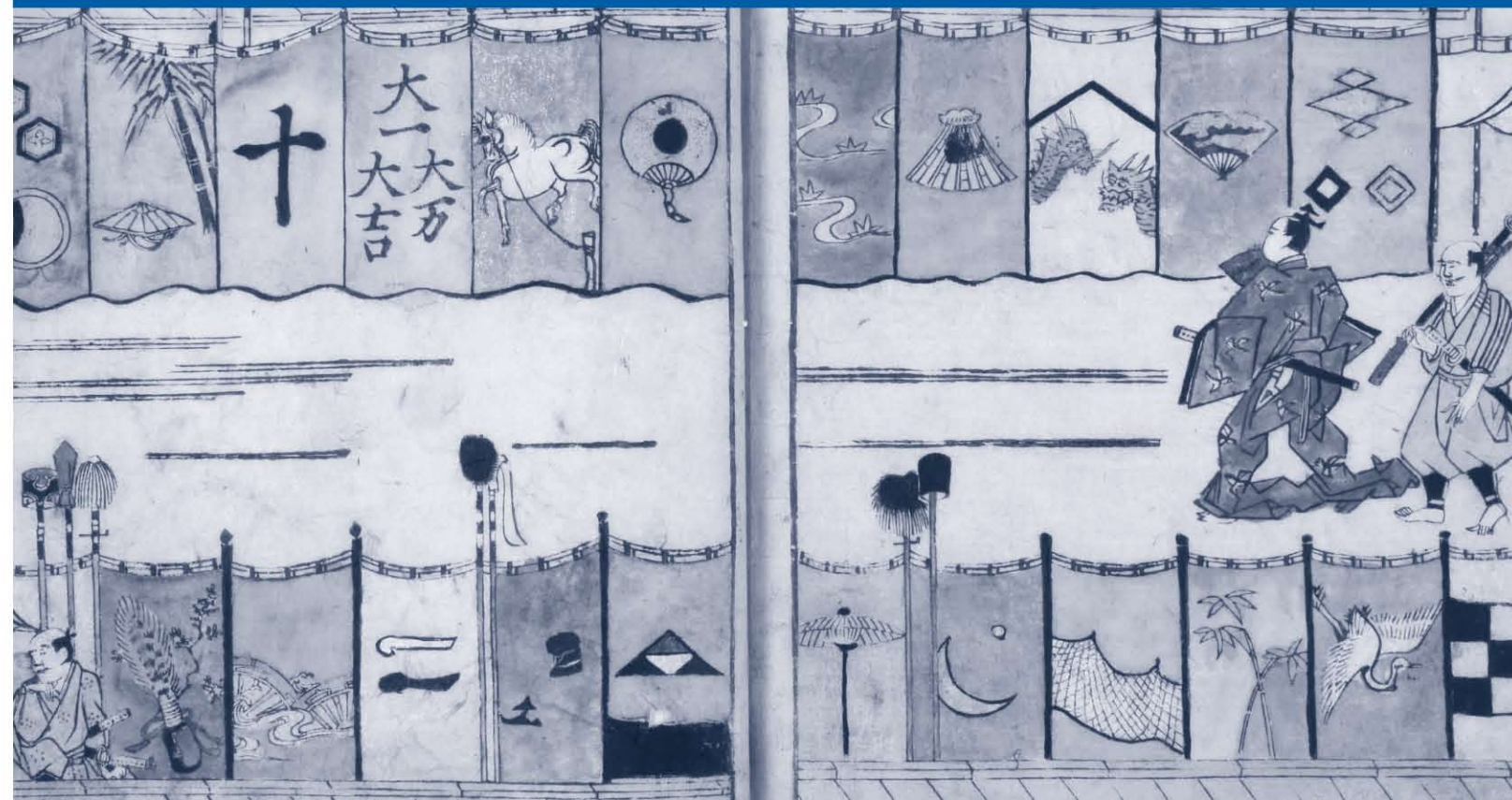
手のひらの上の宇宙

芹沢銈介の絵本と
世界の書籍

2012年6月2日(土)～9月2日(日)

静岡市立芹沢銈介美術館

上段・芹沢銈介作『絵本どんきぼうて』(1937) 下段・芹沢銈介収集『曾我物語 巻八』(江戸時代)

静岡市駿河区登呂5-10-5 TEL054-282-5522 www.seribi.jp

Friendship School 操縦免許取得推進協議会認定優良教習所

スルガマリンサービス

新しい自分の発見
ho scoperto il mio io

「免罪は何処でとっても同じだ」という事はありません。スルガのテーマは「愛憎・感謝・嫌悪」です。
一生懸命に働くヤマに接して、お客様が「感じ」た「動」は「感謝」し、「自らの人生のヒント」を発見されることを希望します。お客様はみんな一生懸命ですから、一生懸命には一生懸命で対応しなければ失礼です。教育に關しては常に「技術力（教育能力＋サービス力＝人的能力）の質」をモットーに、5スタップ一貫教育にあたってあります。

免罪券で、新しい自分の発見は全国区で継続し続ける「スルガの免罪」はひと味も二味も違う。



 1・2級小型船舶操縦士

- **1級小型船舶操縦士 114,600円(税込)**
航行区域無制限 総トン数20トン未満の船舶操縦免許
来校4日(学科講習2日 実技講習1日 国家試験1日)で取得可能
- **2級小型船舶操縦士 89,400円(税込)**
航行区域5海里 総トン数20トン未満の船舶操縦免許
来校3日(学科講習1日 実技講習1日 国家試験1日)で取得可能
- **特殊小型船舶操縦士 58,000円(税込)**
水上オートバイ専用免許 来校2日(講習1日 試験1日)で取得可能



 小型船舶免許申請受付

更新講習

更新講習は有効期限の1年前から受講できます。講習時間は約1時間30分。更新することなく有効期限が満了した場合、操縦免許証は失効します。

失効講習

免許証が失効してしまった方は、講習機関が実施する失効講習を受講することにより免許証の再交付ができます。
講習時間は約3時間。

〒424-0902 静岡県静岡市清水区折戸2丁目13-3



0120-845-811



Friendship School 静岡労働局長登録教習機関

静岡県フォークリフト講習センター



技能講習

フォークリフト・玉掛け・小型移動式クレーン・ガス溶接・高所作業車



特別教育 安全衛生教育

安全運転教育をコンテンツとした人材育成プログラム

詳細はホームページにて

静岡県フォークリフト講習センター

檢、索

＜お問い合わせ・資料請求・会場等の詳細はこちら＞

沼津本校、志太・榛原校：静岡県沼津市原422-1

清水校:静岡県静岡市清水区興津中町522-1(スルガ自動車学校内)



0120-554-954



造り手から使い手へ

き ん り ん

手造り家具の金鱗

静岡市駿河区北丸子2丁目38-9 TEL.054-201-2511 FAX.054-259-6313 OPEN 10:00~18:00 定休日/ほぼ無休 駐車場アリ

生活の中で生きてゆく、手造り家具。

大地に生まれ育って何十年、何百年と生き抜いた木達。
そんな木の自然をそのまま生かしたデザインにこだわり、
一点、一点丹精を込めて作るオリジナル家具。
手造りだからこそ使い込む程に味わいが増し、
何代も受け継がれる素晴らしい家具になります。
金鱗は皆様に木の温もりとゆとりの空間をお届けする
手造り家具のお店です。

